

## 第5回麻生区区民会議

## 第5回麻生区区民会議

日 時 平成25年8月26日（月）

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時00分開会

### 1 開 会

菅原委員長 それでは、定刻となりましたので、ただいまより第5回麻生区区民会議を開催いたします。

この夏は大変暑い夏でございまして、皆さんも大変な思いをなされたのではないかと思います。また、きょうはお忙しい中、おいでいただきまして大変うれしく思っております。この暑さにも負けずに、各区民会議の部会が、勉強会も含め何度か開催されまして、予定を超える取り組みをしていただいておりますこと、大変うれしいことだと思います。

本日は、5月20日、第4回の全体会の開催がなされました、それ以降の進捗状況、あるいは審議内容を確認いたします。各部会、自分の部会はわかるけど、ほかの部会がどのように進められているのかが把握されていないと、いろいろ問題があるのではないかと思いますので、きょうは各部会ともにそれぞれ報告をいただきますので、ぜひ確認していただいて、そして、ご意見がおありでしたら、申し述べていただいて、いいものにしていきたいと思います。この後は、フォーラムとか、最終の提言ということもありますので、充実した内容になりますようにぜひお願いしたいと思います。

### 2 議 事

菅原委員長 本日の議事並びに資料について事務局より確認をお願いしたいと思います。

事務局 それでは、配付資料の確認をさせていただきます。一番上が、本日の会議次第でございます。次に別添1として、席次表、別添2として、第4期麻生区区民会議委員・参与名簿となっております。資料1-1として、安全・安心のまちづくり部会の検討経過報告、資料1-2として、モデル事業公募用資料、資料2-1として、若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会の検討経過報告、資料2-2として、子育て支援グループ等ヒアリング実施結果まとめ、資料2-3として、芸術・文化関連団体等ヒアリング実施結果まとめ、資料2-4として、市の芸術・文化行政ヒアリング実施結果まとめ、資料3-1として、企画部会の検討経過報告、資料3-2として、区民会議ニュース第3号、資料4-1として、区民会議フォーラム概要、資料4-2として、区民会議フォーラム役割分担、資料4-3として、区民会議フォーラム配置図、次に、参考資料1として、第4期区民会議スケジュール、参考資料2として、麻生区区民会議第4回全体会議議事要旨、参考資料3として、第3期麻生区区民会議審

議と提言への取組一覧、参考資料4として、平成25年度麻生区地域課題対応事業一覧、以上でございます。資料に不足等がありましたら事務局までお願いいたします。よろしいですか。

次に、本日の議事について確認をさせていただきます。次第をごらんください。2の議事といたしまして、まず、3つの部会から検討経過報告及び意見交換をそれぞれ行います。次に、その他として、第4期区民会議フォーラムの開催については、企画部会の金光部会長からご報告いただきたいと考えております。3のその他につきましては、第6回区民会議開催日程の確認をお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

### (1) 調査審議課題等について

#### ア 安全・安心のまちづくり部会の検討経過報告及び意見交換について

菅原委員長 ありがとうございます。それでは、早速始めたいと思います。

議事(1)として、安全・安心のまちづくり部会の検討経過報告及び意見交換をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。安全・安心のまちづくり部会の村主部会長から報告をお願いいたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。

村主委員 ご指名をいただきました、安全・安心のまちづくり部会の部会長をしております村主でございます。資料1-1で、部会の検討経過報告をさせていただきたいと思っております。

安全部会では、部会としての審議テーマを「大地震から助かる命を守る」というふうに設定いたしました。文字どおり、首都直下地震、川崎市直下地震が起きたときに、貴重な、とうとい人の命がなくならないように、区民としてできることを審議していこうというテーマを設定いたしました。3つの最優先テーマ、下に、2つの優先テーマがございますが、震災対策というのは多岐にわたりますけれども、その中で特に「大地震から助かる命を守る」というテーマに即した、最も関連の深いテーマということで、3つのテーマを最優先テーマというふうに設定いたしました。その次の枠にありますように、市の地震被害想定報告において、麻生区内では、火災による死者が26名、建物倒壊による死者が16名という想定が出ておりまして、これを何としてもゼロにしていくということでございます。もちろん区民による取り組みだけで完全にゼロになるわけではございませんが、あくまで目標は、この死者数をゼロにするということで、区民が主体的に取り組めることを取り上げていこうということでございます。

3つの優先テーマは、1つは、家屋の倒壊防止ということで、耐震性が不十分な家屋がまだございますので、耐震診断、耐震補強、あるいは耐震性のある建物への建てかえを進めていく必要がございます。そういうことをテーマにしております。

2つ目が、家具の転倒防止でございまして、同じ建物の中でも、仮に家屋が耐震性がある、倒壊しなくても、中に置いた家具が、タンスとか、食器棚とか、そういったものが転倒、あるいは落下しますと、それによって、場合によっては人命が失われる、あるいは大けがをすることがございますので、これについても重要なテーマとして2番目に位置づけております。

3番目は、被害者想定で最も多い火災死者26名とございまして、火災の予防、あるいは火事発生への対応ということでございまして、もちろん大火事になったときには、消防署、あるいは消防団によるプロの消火に頼らないといけません、特に初期消火の段階で、火が小さいうちであれば、身近にいる住民、区民みずからが消火することが有効かつ必要だということで、そのための消火器の設置ですとか、消火訓練を3つ目のテーマにしております。

そのほかに、この3つのテーマに絞ったとしても、まだまだ幅広いわけですが、そのほかに関連して2つの優先テーマを設定してございまして、下に4番、5番とございまして、4番として、災害時に救護・援護を必要とする方々への対応、いわゆる災害弱者と言われる方々、自力で避難が難しい方々には特別の対応が必要だろうというのが4番目とございまして、5番目としては、災害が起きて、倒れた建物の下敷きになったりしてけがをされた方、あるいは生き埋めになった方を一刻も早く救助、手当て、安全な場所への収容ということも、当然命を守るという意味では重要だろうということで、全部で5つのテーマに絞り込んだわけとございまして。

これでも1つ1つが非常に大きなテーマとございまして、この後どうしていこうかということになるわけとございまして、区民会議の今までのスタイルで、会議でみんなで議論するというを中心にしても、それぞれに法律があり、国や市の補助制度が既に整備されておりますので、それをなぞるような議論をするだけでは余り意味がないということで、自分たちで、区民でできることを議論しようということで、実際に区の中へ行って、区民の方々とともにモデル的な取り組みをしようではないかというふうに議論を進展させたわけとございまして。

それが真ん中とございまして、モデル事業と書かれております。真ん中を見ていただきますと、モデル事業の目的のところは、先ほどテーマに掲げました「大地震で助かる命を守る」に向けて、区民の主体的な取り組みを促進するということでございまして、ここからさらに3つの優先テーマの中から、モデル事業としては絞り込みをしてございまして、特にモデル事業の内容で書いてありますが、②の1つ目の菱形の中に書いてありますが、家具の転倒防止対策を中心として対応を検討していこうということで、1、2、3のうちの2番の家具の転倒防止にさらに重点を置いたモデル事業の組み立てをしてしております。なぜ家具の転倒防止かということですが、もちろん火災の防止、それから、家屋の倒壊防止が死者数を減らすという意味では、直接的に重要な

のですけれども、区民レベルで取り組むということなので、まずは家具の転倒防止からであれば、どのご家庭でも、素人の方でもすぐに取り組める。案外、十分な取り組みをなされていない、対策を普及していないというふうに見受けられましたので、家具の転倒防止から入っていこうと。それを中心に、もちろんそれだけではなくて、関連して、建物の倒壊防止や火災の予防についても取り組んでいこうということでございます。

②の1つ目の菱形に戻っていただきまして、かなり専門的、技術的な内容にまでかかわってまいりますので、協力していただく方々を選びまして、同じ川崎市の明治大学の生田キャンパスに建築学科がございまして、こちらの先生にご協力いただくということで、後でご説明がありますけれども、フォーラムでのご講演をいただきます園田眞理子先生に、監修という形でご協力いただくということにしております。それから、建築技術者として、大工さんですとか、あるいは大工さんを指導される建設会社の非常に建築の技術にたけている方、そういう方にご協力をいただきながら、専門的、技術的な面でご指導、サポートしていただくと。実際に区民のお宅に行って、家具の転倒防止の金具でとめるという作業をしますのです、そういう作業は我々素人が手を出すのではなくて、大工さんなり、技術者の方に直接手を下していただくという体制を組むこととしております。

2つ目の菱形は、家具の固定工事や移動と書いてありますが、基本的には、今置いてある家具を必要性の低いものを除いて一通りはとめてさしあげるということですが、観察をさせていただいて、場合によってはこの家具、ちょっと動かすだけで随分安全性が変わりますよとか、そういった場合は移動もお話し合いの中でお手伝いする。動かした後で、適当なところで家具をしっかりととめるというようなことを無料でさせていただくという組み立てでございます。そういうことを実際にやらせていただいて、そのお家の住まい手の方々の意識とか認識がどう変わるのかということ、アンケートとかヒアリングで把握させていただいて、そこでわかったことを、それで終わりではなくて、そこで得られたノウハウなり知識を普及のパンフレットか映像仕様か、そういったものにまとめて、区民に対して普及啓発を図っていこうというような組み立てがモデル事業でございます。

その下の募集内容についてということで、これは既にモデル事業の枠組みを組み立てまして、広く区民に対して募集をいたしました。どのような募集をしたかということが真ん中の下に書いてございます。対象としては、戸建て系とマンション系ではやはり対策が違おうだろうということで、分けておりまして、さらに、これは本格的な事業ではなくて、あくまでモデル事業だということで、10戸程度ずつ、戸建て10戸、マンション系10戸ぐらいのグループを募集しようということでございます。条件はそこに1、2、3というふうに書いてありますが、できれば地域でまとまってください

と。それから、マンションの場合は、1棟で数十戸というケースもありますので、1棟丸々ではなくて、そのうちの10戸程度ということで構いません。それから、10戸程度というのを、何も10という数字に厳密にこだわる必要はないので、目安としましょう。それから、構造とか、建築時期は問わないということで、あくまで家具の転倒防止ですので、建物の耐震性が建築時期によって十分ある場合もございしますが、新しくても構わないというふうに最初の条件は設定いたしました。

ここには募集方法を書いてございませんが、実際の募集方法は、区民会議のホームページで情報発信をするというのが1つ、それから、幾つかの地域メディアが区内の世帯にポスティングされておりますが、その地域メディアに記事掲載をしていただきました。もう1つは、各委員が個別に自分たちの知り合いなり、関係者にPRする努力をする、そういった形で募集をさせていただきました。

期限としては、8月19日で一応切っております、応募は、我々のPRも不十分だったか、あるいは10戸でまとまってくださいというのがハードルが高かったのかなと反省しておりますが、マンション系1件、1棟の応募がございまして、戸建てのほうは、19日の時点ではなかったということでございます。応募のあったマンション1件については、21日の部会で正式にこのモデル事業の対象とすることが決まったということでございます。

次に、右側に行ってくださいまして、モデル事業のスケジュールでございます。先ほどの説明とダブリますので、ポイントだけ言いますと、上のほうに、モデル対象地区の選定（7～8月）というところの下のやや丸い枠ですね、モデル事業対象地区、マンションについては、先ほど言いましたように、部会で決定しておりますが、戸建てについては、今のところまだないということなので、要件緩和をしまして、1戸からでもいいですよ、我が家だけやってほしいというケースでもいいことにしようということで、条件緩和をして、一応9月30日で締め切ることにしておりますが、応募は順次受付と書いてありますが、基本的には先着順で受付して、特に問題なければ、余りよくないというケースがないわけではないと思うので、よければ先着順で10戸程度にいくまでは受付をして、何とか10戸まで持っていきたいというふうに考えております。その関係で募集がずれ込んだ関係で、その後のスケジュールはややおくれぎみでございますが、9月以降にモデル事業を実施していこうということで、事前の説明をしたり、各戸に事前にお邪魔して、タンスの様子とか、壁、柱の構造、釘どめするときにちゃんととまるかどうかといった大工さんのようなチェックもさせていただき、お住まいの方の意向も伺わないと、ある意味で建物を傷つけるといいますか、穴をあけるということになりますので、ちゃんと調査して、ご納得いただいた上で転倒防止工事を実施する、記録をつけて、アンケートなどで対象家屋のお考えも伺うといったモデル事業を秋実施しまして、その結果を取りまとめをして、普及啓発、資料にまとめ

ていこう、そういった流れで進んでおります。

そういうことで、実施体制は、大学の先生や建築技術者の確保ができましたので、対象住戸、協力いただく住宅が確保できれば、このモデル事業の実施はある程度めどがたっておりまして、できるだけ早く実施していきたいと思いますが、さっき言いましたような募集状況でございますので、やや五月雨式に、手を挙げていただいたところから順次実施するような形になるかと思っております。できるだけ早く実施して、成果をまとめていきたいと思っております。

右下にありますような、この後、別の資料でご説明いただくとありますが、7日のフォーラムで、主にこの安全部会の取り組みと、それから、関連の大学の先生のお話をいただくということで、展示もあわせてしていこうと考えております。

安全部会の検討状況は以上でございます。

菅原委員長 ありがとうございます。それでは、まずは質問がありましたら、どうぞ。

高橋（慶）委員 今、村主部会長のほうからご報告がありましたけれども、この19日で締め切りました、マンション系1件というのは、10戸の募集に対して、1棟の中の1件だったということでしょうか。

それと、戸建てのほうが募集期間中に候補がなかったということですが、前回、7月に町会連合の理事会に部会長もお見えになりまして、回覧のお話をされたときに、たしか町会連合のほうでは、それは回覧の時期が遅い、もう少し早くということと、戸建てが同じ地域の中で10戸ということで、それでは、106町会、全戸に回覧してもらえないと、お聞きしていた状況だったのですが、1戸建てのほうの募集の緩和をするという、今お話がありました。これは、そうすると、今は1地域10戸程度に限るということ、地域を広げて、1地域2～3戸で、区全体で10戸がまとまればいいのか、もしそういうふうな緩和ができるのであれば、町会連合のほうもきょう会長も見えておりますけれども、9月30日はあと1カ月しかないと思っております。その中で、募集を緩和して、区民会議ホームページ、地域メディア、それで各委員の知り合いにPRということですが、やはりもう片方で、区民会議としてモデル事業のスケジュール終了後に発表するという段階になりますと、もう1度町会連合のほうにご相談という形で、106町会が4ブロックに分かれている町会の中で、各ブロック1～2件を集め、それがまとまって10戸であれば、区全体で取り組むということで、もう少し全体的な募集の中で確実に話し合いによって、公募の成果がお話の中で上がっていくのではないかと考えるのですが、その点についてはどういうふうにお考えでしょうか。

村主委員 2点ご質問をいただきました。1つは、マンション1件の応募があったと、この1件という書き方がはっきりしなかったと思いますが、1棟でございます。1棟のマンションから手が挙がりまして、マンションの中でやっていただく可能性のある住戸が十幾つある中で、10戸程度を選びたいと、正式に採択された後で、マンションの

中で話し合いをしたいということでございますので、このマンションは、10戸程度という前提で1件の応募があったということでございます。

それから、戸建ての募集を緩和したことに関連してですが、広く区内に周知をして募集するというのは、我々も最初から一貫してそういう考え方を持っておりまして、町連のほうの回覧機能のご協力をいただくということは当初考えました。高橋委員もご出席されていまして、ご存じですけれども、町連の役員会にご相談した経緯もございまして、具体的な内容は省略いたしますけれども、町連の回覧を通してモデル事業の募集をするというのは、やらないということになった経緯がございます。我々はあくまで広く公募するというのを具体的にどういう形で実現するかということで、先ほど言いましたけれども、区民会議のホームページ、それから、地域メディアで、津々浦々まで募集の情報を行き渡らせると。それだけでは待っていてもなかなか手が挙がらない可能性もあるので、個別にこれはという方々に各委員が声をかけるということを重ね合わせる形で、公募というスタイルをきちんととったという説明ができる形で、かつ実質的に応募が目標数までいくように、そういう取り組みをしてきたわけでございます。緩和したことに関しては、ホームページで再度そういうことを発信しておりますし、タイミングが合えば地域メディアにも載せていただこうと。地域メディアは、載せる載せないは先方の判断ですので、不確かな面もありますけれども、そういう形で広く周知を図っていこうと。時間的にも、あるいは当初の経緯もありまして、町連のほうに改めてお願いする予定は今のところございません。

以上でございます。

高橋（慶）委員 まだ少々疑問が残ります。1カ月で、今まで募集ゼロだったのが、その当時もいろいろ募集はしていたと思うのですね。それできょう現在ゼロであるということについては、9月30日、実施に至る方向で、もし区民会議の委員が各自当たって、それが区民会議の中のメンバーであると、麻生区全体の中から当たるのはそれは確かにいいと思いますが、10戸という、多少少なくともいいのかもしれませんが、きちんと本当に訪問して、取り組みの結果を報告できるのかなというのが、お聞きしていても不安なのですけれども。

菅原委員長 その不安を解消してもらわないと。それは高橋さんだけではなくて、まだマンション1棟ですよ、でも、その中、全員がやるわけじゃないんだと思いますし、個人はまだないということですから、みんな不安がっていると思いますが。

村主委員 戸建てのほうは、10戸でまとまってくださいという形で説明したときに、自分はやってもいいんだけど、自分が10戸集めてくるのはなかなか大変だという声を実際に多く聞いたのですね。19日までは確かに応募ゼロでしたが、きょう現在で、緩和を始めてまだ1週間たっていませんけれども、既に2戸の応募がありましたので、1戸ずつの応募であれば、あくまで希望的観測ですけれども、10戸はいくだろうと思って

おります。

高橋（慶）委員 部会のほうの委員さんもいらっしゃいますから、期待します。

菅原委員長 きっと部会の人が一生涯懸命やってくれないという話をしていらっしゃるのではないかと思いますが、そういうのにお応えいただいて、それでは、自分のところでやってもいいですよとおっしゃった方がいるかもしれませんね。

金光委員 村主さんのやり方もいいんだけど、せっかく町連から来ている代表の方が、もう1度町連にお願いしてみたらというふうに言われているのに、どうして町連にお願いするつもりはありませんとする理由がわからないんだよね。これは町連のほうも積極的に協力してくれるということであれば、4ブロックの中から1件でもいいから、会長さんが説得して、協力してくれる人を探してくださいということであれば、やってくれる可能性は多分強いのではないかと思うのですよ。ここに高瀬さんという会長もいらっしゃいますし、それから、高橋さんという、町連を長くやられている方もいらっしゃる。そういう人から、町連の中でそういう後押しするような援助が出れば、それに対して積極的に協力してやろうかという人だって出てくると思うんですよ。これはもっと素直に、じゃあ、お願いしますと頭を下げたらいいいんじゃないですか。協力してくださいと。

菅原委員長 先ほど町連にはいろいろな経過があって、自分のところとして、もう1度というふうにはならないと。多分、個人の考えではなくて、部会として、皆さんでそのことについてはお話しされているのだと思いますが。どうぞ。

村主委員 町連に考え方としてお願いしないと、断るとかということではなくて、あくまで現実的な判断をしたわけでございまして、マンションはとりあえず先行してスタートすると。全体のスケジュールがある中で、大学なり、建築技術者の協力を仰いで、大体こういうスケジュールでいくつもりですという話をしてあって、大学も、大学の先生だけではなくて、学生さんにもご協力いただけるので、できれば夏休みがいいだとか、そういうスケジュールをにらみながら進めてきて、残念ながら応募が少なかったのので、要件を緩和して、募集期間を延長したということで、その至る過程で、じゃあ、町連に声をかけなかったのかというと、そうではなくて、先ほどご説明したように、役員会にお邪魔をして、ご説明をさせていただいたわけでございまして、結果的には具体的な回覧のご協力をいただけなかったのので、その他の方法で、高橋委員が今ご心配いただいているように、広く区民に対して公募したのかという点は、我々も説明できるような形を、ほかの幾つかの手段を駆使したほうがいいだろうということ、進めてきたわけでございまして、時間的な中で、戸建てについての追加募集は自分たちができる手段でやらせていただこうかと。町連にお願いすると、町連のほうのご都合もあって、なかなか時間的に相当スケジュールが延びてしまう。そうすると、その成果を出して、まとめて、普及までぜひ取り組みたいものですから、その辺のス

ケジュールの制約もございまして、現実的な判断を部会でしたということでございます。

菅原委員長 それでは、高橋委員。

高橋（庸）委員 逆に質問したいのですけれども、村主さんの今回の応募に対して来なかった理由というのは、私は、それでは来ないなという感じしかとれないのですね。再募集の用紙がありますよね。これを見ると、自分の家だけは大丈夫だとみんな思っていると思うんですね。ですから、ちょうど東日本大震災もあったし、具体的にどんなことでどう崩れてしまったとか、これをやったことが助かったという、もう少し切実感というのかな、そんなのが1人1人に伝わるような、命にかかわることなのでね。何かすごいことをやっていると思うんですよ。でも、1つも来なかったということが、私自身も何でだろうかなと。しかも、無料無料で何回もおっしゃっていますが、ただ無料だからといっても、そうは来ない。お家の中に入られるということが結構嫌な人が多いのでね。そういうふうになると、再募集について、今までがどうだったのかな、どうしてそうなって、せっかくいいことをしているのに、応募が来なかったのかな。その辺を分析するというと大げさですけども、あったら、それこそ、1人2人がその気になって話してくれれば、つられて簡単に来てもらえるような気がするんですね。その辺、どうでしょうか。何で来なかったのかなということがよくわからないんですが。

村主委員 実際に募集されなかった方の意見を聞くというのは難しく、ただ、声をかけたけれども、やっぱり難しいと言って断られた方の多くは、10戸まとめるのが難しいと。自分は興味あるし、やってみたいと思うけれども、10戸でまとまってくださいということになっていて、自分以外に9件を、自分がまとめないといけないと、そこが難しいよという意見は、初期のころからあったのです。19日までの募集でも、場合によっては、まず代表的に手を挙げていただければ、その方とご近所に説明会といいますか、声をかける、ご協力はもちろん区民会議のほうからさせていただいてもいいですよというふうに、運用を緩めたりはしたのですが、それでもやっぱり10戸集めるのが難しいと。そこが最も大きなネックだろうというのが、部会での共通認識なので、本来10戸、地域的にまとまってほしいわけですけども、1戸ずつでもいいと。極端なことを言うと、麻生区内に10戸がばらばらに散って、全部で10戸というのもやむを得ないのかなということで、そこは現実を見て緩和した次第です。ですから、1戸でもいいよということになると、既に2世帯から手が挙がってきておりますので、ぽつぽつと集まりながら、もともと目標が10戸ですから、10戸までいくのではないかと、それぐらいは部会中心に集めようではないかという議論はしております。

高橋（庸）委員 見た人が切実感がないと、やってくださいとか、やりませんか、いいことなんですよと、やっぱり今の状態だと、拒否されるというか、結構ですよと適当に

ね。10人先着ですと言ったら、20人、2倍になって来るぐらいの方法とかね。思いつきで悪いけど、例えば業者に、大震災のときにたくさん写真入りで、住宅にもポストにも入り込んでいたよね。やらなくちゃいけないとって、ここらのスーパーで、どこが安いかな、実際回りましたよね。そういう気持ちが今なくなっているのもあるかもしれないけど、そういうものがすごくあるといいのかなと。逆に言えば、お願いしてやることではないような、1人1人がみんな安全・安心について感じるような、その点がないと、何となく、こちらとしては、モデル事業をしたいので、そういう対象が必要と思うのですけれども、その辺、もう少し積極的にお願いしてもいいのかなとかね。決して悪いことではないのでね。その辺が一生懸命動いている割には、余り反応がないというのが、気の毒な感じがするのですね。ですから、その辺も時間が余りないので、村主さんのほうで動き出してもいいのかと思うぐらい、直接行って、営利をもらっているわけじゃないけど、そんな感じがあってもいいのかなと思って。結果が結局、モデル事業だし、1人1人がやっておかなきゃいけないという気持ちになつたらうれしいなとすごく思うんですね。

菅原委員長 ありがとうございます。時間も迫っていますけれども、結局、今、部会長が報告したことは、部会の委員の皆さんがそれぞれご納得しているわけですね。その方向で取り組んで、提言を書こうと。そして、モデル事業をした結果についてもアンケートをとって、それから、こんなふうにして、今度のフォーラムでも、展示もするのでしょう。こんなのを使って、こんなふうにしたらば、こうだったということ、大いに宣伝していただいて、それが区民に広まらないといけないわけで、そういう役割を区民会議が提言の中に入れていこうというわけだから。人ごとではなくて、委員の人、こちらは10名いるんですよ。だから、10名の方が少なくとも自分の関係の人や、ないでは通らないと思うんです。だから、最後は自分の家を提供するぐらいの気持ちがないと、10件集めることはなかなかそう簡単にいかない。今、2件あることですが、多分、前に区民会議にかかわったことがある人で、村主さん、そんなに困っているんだ、私がいいわよと言ったかもしれないんですよ。そういうふうに、説得したのかもしれない。わかりませんが。10名の方で、それぞれ責任を持って、自分の家をやってもらったっていいよと、そうでなかったら、自分の町会の人を説得してみて、やってもらうよぐらいに思ってくれないと、進まないと思いますので、先ほど部会長の報告どおりで進めていただけますように。

そして、ほかの人も、私たち、部会じゃないから知らないわというのでは、またこれはだめなのです。知らないわではなくて、今聞いて知ったんですよ。たった1件しかなかったという話、個人は2件しかない。これ、10件集めようというのでしょ。9月30日、すぐにもやらなければいけないわけですよ。フォーラムは次の週ですよ。9月7日にフォーラムをやるのです。そのときに、まだ1件しか募集がありませ

んと、皆さんに来ていただいて、この安心・安全のことをやる。そのことなのに、募集したら1件しかありませんというのでは、話になりませんものね。やっぱりみんなでも1件でも2件でもふやしていくように、それは部会の人を中心だけれども、そうでない人たちも協力して、まず部会長の今の状況がわかりましたから、みんなで取り組んでいけるように協力をよろしくお願ひしたいと思います。特に高瀬委員は町連の会長さんということでやっていただくのではなくて、部会として決めたということだから、あとは立場ではなくて、個人としてお声をかけられるところに声をかけて、協力できますようによろしくお願ひしたいと思います。よろしいですか。

イ 若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会の検討経過報告及び意見交換について  
菅原委員長 それでは、次に進ませていただきます。次は、若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会の検討経過報告と意見交換を行いたいと思います。まず、経過報告、石井部会長から報告をお願いいたします。

石井副委員長 若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会です。前回の5月のときは、菅野委員と武濤委員からご紹介いただきましたけれども、その後の報告をさせていただきます。

こちらの部会のほうは、先ほどの安全部会みたいのところまで具体的な絵が描けていないので、今はヒアリングのご報告と今後の方向性をご報告したいと思っています。

まず、資料2-1にございますけれども、左側にあります、この部会につきましては、2つのテーマで進めております。まず1が「子育てしやすい環境づくり」ということで、これは前回も菅野委員から途中経過がされましたけれども、お手元のもう1個の資料2-2が5月以降のヒアリングが終わったものの一覧表でございます。これに入る前に、先ほどの資料2-1の審議の経過のところでも重複するかもしれませんが、簡単に流れとしてご理解いただきたいのは、子育て世代の意向を把握しようということで、まず母親たちにアンケートをとりました。これが審議経過の表になっております。左側は川崎市のアンケート調査の結果の項目と、それに対して2月2日にこどもと一緒にコンサートでの結果、困っていることの上位が幾つか出ています。子育てで困っていることは、まずは保育園がいっぱいで入所できない、第2位が、いざというときに子供を預かってくれる人がいない、あとは、保育料等の経済的な負担が多いというのが上位の3つです。行政に対する期待もありまして、近くで遊べる公園や広場の充実、子供と遊べるスポーツ、芸術・文化の施設の充実、3番目に、保育園の受け入れ定数の拡大というのが上位になっております。

次に、育児の早い段階から麻生区に長く定住してもらおうということを我々は考え

ていくときに、子育ての問題が、現在注目されています待機児童の問題になっていますけれども、それも含めた子育ての、あるいは子育て支援の現場における現状と課題がどうなのかをもう1度確認しようということで、先ほどのヒアリングをさせていただいています。

実は麻生区にはこういうグループ等が42個、麻生区で出していただいている冊子でもあります。その中の6個を選んでヒアリングさせていただいています。それが2-2のところ、各委員、手分けしていただきまして、6月20日までかけてやっています。個々については時間がかかりますので、かいつまんでご報告していきます。沿革とか組織についてはお読みいただければと思うのですが、それぞれ出発点が違っています。みなみゆりがおかの地域子育て支援センターは、区内唯一の支援センターということで、設備も非常に充実されているという形でスタートしています。あとは自主保育サークルですね。基本的には親御さんたちが交代で保育をしたり、それぞれがボランティア団体的に協力しながら自主保育をされている団体、あと、子育てサロン等ございます。主なヒアリング団体からお聞きした意見ですけれども、活動内容とか、参加規模等は後ほどゆっくりごらんいただければと思います。

次の2ページ目、それぞれ、取り組み、力点、課題等が右側でまとめております。現在、全体では、母親同士の情報交換、交流ということが1つ大きく期待されていることで、自主サークルのところも、親同士が真の仲間となってストレス発散の場になっているということと、基本的に子供の支援と同時に、母親同士の支援ですね、お互いが成長し合うという形とあります。あと、障害児が最近ふえているということで、早目の対策が必要になってきているということと、保育を行うにおいては、人材不足、人手不足、遊べる場所がないとか、プレイパークづくりのためのリーダーの養成等出ております。

最後のページの右側ですけれども、イクメンの関心が弱いとか、自主保育サークルについては、公園を使ったりされるのですけれども、遊具が少なく、余り利用されていないという問題点と、行政との協働ができるとよいという話、あるいは場所が定まらないので疲れるという、活動をされている団体の悩みも出ております。

今回はざっくりで少々わかりにくいかもしれませんが、子育て支援に関しても、専業主婦の方が中心なので、もっとワーキングマザーやひとり親などの方の把握する必要があるのではないかと、待機児童の対策も必要なので、そちらを議論したらどうかという意見もありました。今回、議論の方向性としては、横浜が待機児童ゼロに成功したのですけれども、それと同じことを目指すのではなくて、麻生区の魅力や特徴を打ち出せないかということです。麻生区の魅力として、いろいろなメニューがあり、選べるということを打ち出してはどうかということで、先ほどの資料2-1の下にありますけれども、主な子育ての課題が出ております。子育ての保育

の人材にかかわる養成、ここには高齢者の方の活用も含めて、人材の育成の問題が重要であろうということ、あるいはいざとなったときに預けれる体制、このあたりの仕組み、ここが充実していければ、麻生区の1つのモデルができるのではないかとということで、実は岡上地区で地域が一体となって子育て支援されている取り組みがあるということで、ここはNPOのコッコロの代表である菅原委員長が兼ねていらっしゃるということで、この取り組みを参考に検討していったらどうかということになりました。

資料のほうには反映できていないのですが、8月12日に部会でこの話をお伺いしました。岡上のこども文化センターでは、幾つかの仕組みを取り組んでおられます。複数の形が行われていまして、子育て支援センター事業、岡上子育てあんしん広場、おかつサロン、あと、子育て人材バンク事業という、幾つかあるものをうまく活用されています。これらの報告をお伺いしまして、部会としての今後の審議方法ですけれども、この「子育てしやすい」のところについては、まず何しろ子育て支援の充実として、安心のキーワード、人材バンクの充実等、保育コンシェルジェを育てる等々の安心なキーワードが打ち出せないかということと、子育て体験とか、情報交換会をもっとつくったらどうかということで、「楽しい」というキーワードで考えていこうというくくりです。

もう1つは「助かる」ということで、先ほどありました、いざというときに預けられるとか、そういうものの麻生区内での一時預かり保育、病気の子供の保育、産前産後の家庭ヘルパー支援とか、逆にショートステイ等の仕組みが考えられないかという話が出ております。これをあわせて、今後ですけれども、子育てフェスタというものをモデル事業としてやろうではないかということで、今検討しております。きょう、この会議が終わった後に勉強会を開いて、もう少し具体的な方向性のものを考えて提案していこうと思っております。

ここの楽しみのところに、「芸術・文化のまちづくり」の関連もあります。ここのところと一緒に考えていこうということで、今、テーマ1と2と別々に進んでおります。これを一緒にしようという方向であります。テーマ2の芸術・文化のところは、少し進展がありましたので、これもご報告させていただきます。資料2-3と2-4です。資料2-3は、芸術団体、芸術教育機関、市民演奏団体、市民文化団体と、この団体をくくりとして、全部で10個の団体をヒアリングさせていただいております。これも5月から6月にかけて、各委員手分けして、回らせていただいております。

ここの出てきたヒアリングの結果ですけれども、簡単にまとめさせていただきます。まずは3期のときに提言が出ております文化担当官の設置、文化会議の設置、景観形成条例の見直し等の、ここに関しましては、それぞれ積極的に皆さんいろいろ意見をいただいております。まとめのところに出ておりますけれども、芸術のまちとし

てのまとまりにまだ欠けるので、芸術・文化のテーマをもっと絞って、文化に理解の深い人がここでは多いので、もう少しこの全体としてのまとまりをつくってほしいということです。以前、社会教育主事機能というのが市民館であったので、それを生かしたらどうかとか、文化担当官ということが、役所ではなくて、ボランティア等を活用して、もっと巻き込んだらどうかということが出ています。ボランティアで担うという意見も出ています。麻生文化会議に関しても、団体間のつながり、それは必要性はそれぞれ感じられていますけれども、協力関係をどうつくるかということが課題となっています。特に市民演奏団体については、自分たちの活動のほうが中心なので、横の連携というのはすぐはなかなか難しいのではないかという意見もあります。情報発信についての景観形成のところも幾つかアイデアが出ていまして、アートセンターまでの間にもう少しにぎわいができる発信ができないかというような提案もされております。

あと、今回新しく、若者や子供たちが楽しめる芸術・文化のまちづくりに関してご意見をいただいています。このあたりを子供たちが楽しめる仕組みの中に、先ほどの子供の環境づくりのところへ今後出てきた意見を反映させていただけるようにしたいと思っています。

幾つかあって、夏休みにアルテリッカの子供版を開催したらどうかとか、映画大学、昭和音大のコラボとか、麻生音楽祭に軽音楽を加えて、中高生の参加がふえるということも幾つか出ています。今後、活動上の市や行政への要望等もありました。これらは2-4のところにありますように、区役所、行政のほうにこれらのご意見をまとめて報告方々、それぞれの考えをお伺いしてきました。これは7月、8月、各委員で手分けして、これもヒアリングをさせていただいています。区役所の地域振興課、麻生市民館、文化財団、市役所の市民文化室というところまで話をお伺いすることができました。

まとめのところでちょっとご報告させていただきますけれども、ご意見としては、行政の立場としては、文化担当官というのは現在置くことは考えていらないのですけれども、文化財団の方からは、区の特徴ある政策課題として、行政に文化担当官のセクションを検討してはどうかという意見もあります。麻生文化会議についての考えですけれども、幾つかの提案がなされています。NPOのしんゆり・芸術のまちづくりの役割がここで担えないかということと、もうちょっとアルテリッカとか、映画祭とか、音楽祭で今ボランティアの活動をされていますので、そのサポーターの交流の場としたらどうかと。あと、会議をつくっても、なかなか活発にできないケースがあるので、ウェブを活用したネットワーク会議として情報発信、収集という形のものを検討したらどうかという話をされています。景観形成については、今かなり見直しをされているというところですので、それを見守りながら、文化財団のところで

は、規制を守りながら、アートセンター通りにのぼりの設置や駅のコンコースにポスターを掲示してはどうかというご意見もあります。

2番目に、しんゆり・芸術のまちの今後の展開なのですけれども、ここに関しても、しんゆりだけではなくて、区全体で年間を通して区民が参加でき、多くの文化資源を活用して、文化の香りのあふれるまちを方向性としたらどうかということです。

3番目として、若者が住みたくなる芸術・文化のまちづくりについてのご意見としては、区内に大学、高校等ありますので、それらをもう少し活用したらどうかということです。若者にとって麻生区は環境がよいイメージがあるので、さらに芸術・文化が盛んなイメージをつくり出すということで、麻生文化会議など団体間のネットワークに大学生に参加してもらったらどうかというご意見もあります。

芸術・文化団体のご意見、幾つか出たことに対してのご報告をしまして、練習場所の問題等団体からは出ていまして、そこについてのご要望につきましてはなかなか難しいところがございます。今後、この辺の状況、要望は川崎市のほうに意見書として、ちょうど川崎市の文化室が芸術文化振興条例の見直しをされておりますので、そこに意見を行政としては出していこうと。あとは、今後、我々として、区民として生かせるものを提言にまとめてまいりますけれども、先ほどの子育てフェスタの中に交えながらも、別途芸術・文化団体と先ほどヒアリングで得られた結果を踏まえて、区内の若者を集めて意見交換できるような場を考えたらどうかということへ今来ております。まだまだ内容が絞り切れておりませんが、今後、ヒアリングの結果をもう少しまとめて、若者を対象とした意見交換会を開催するということと、今後、モデル事業で仮称の子育てフェスタを何とか一から検討して、子供たちのコンサートなども楽しめるようなものを追加しながらやったらどうかということで、提言に向けてこれからも議論していきたいと思っております。

まだ内容が短時間でわかりにくいかも知れませんが、簡単にご報告させていただきます。

菅原委員長 ありがとうございます。それでは、ただいまのご報告について何か質問がありましたら、どうぞ。

追加というか、この資料にははっきりこのことは確認したのですが若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会としてのテーマを、「子育てするなら麻生区で」と決めたのですね。その下に「安心・楽しい・助かる」というふうに入れるということで、最終的に確認したと思うのですが、子育てするなら麻生区で、その下に「安心・楽しい・助かる」、そういうコンセプトで、若者が住みたくなる魅力あるまちづくりをやろうというふうに、これは部会で確認したので、ですから、今いろいろお話しいたしましたけれども、要は、子育てするなら麻生区で、その中に「安心」、じゃ、安心は何なのだ、「楽しい」は何なのか、「助かる」は何なのかということで、その中から取り上

げたものをちゃんと実現できるようにしていきましょうということが、これからの取り組みなのです。その中の具体的に見せるのが、モデル事業で、子育てフェスタをやって、お母さんや、子育てをしている、若い人や学生も含めてみんな交流ができれば、意見交換ができればとか、子供たちがいろいろ発表できればとか、お母さんがいろいろ発表できればとか、そういう場面をつくっていきましょうよと、きょう、終わってから具体的なことをみんなで話し合うのですけれども、そういうことで進めているのです。

芸術・文化と離れているわけではなくて、芸術・文化とこれは結びついているのですよ。だから、「楽しい」ということは、何かといたら、芸術参加することや、自分たちがつくっていくこと、そういうところに「楽しい」、生活に結びついた芸術、子供に根ざした芸術、そういうものを入れていきましょうということでございます。前回の提言が3つ、それぞれ、文化担当官を置いてください、文化会議をつくってください、景観条例の見直しをしてくださいということで、反対しているところはないのですよ。ニュアンスは、こんなふうにしたら、文化担当官はボランティアで置いたらいいとか、いろいろありましたけれども、支持してくれているのです。だから、それを具体的にはどういう形であらわしていけばいいのかというのが、これからの課題なのです。ということで、何かご意見があれば、どうぞ。

## ウ 企画部会の検討経過報告及び意見交換について

### (2) その他

#### ア 第4期区民会議フォーラムの開催について

菅原委員長 次に進ませさせていただきます。

企画部会の検討経過報告及び意見交換を行いたいと思いますので、企画部会長の金光部会長から報告をいただきたいと思います。

金光委員 企画部会の金光でございます。それでは、企画部会の経過についてこれからご説明したいと思います。

まず第1に、資料3-1と、その次の区民会議ニュースVol. 3、それから、4-1について逐次説明を加えていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

まず第1に、広報・広聴活動についてですけれども、これは我々区民会議として、麻生区にある地域情報紙3紙に、区民会議の活動についていろいろニュースになるものがあれば、逐次情報を流してくださいということで、協力を求めてまいりました。その結果、今回やる区民会議のフォーラムにつきましては、マイタウンが9月号に、メディ・あさおが9月号に、タウンニュースが8月9日号にそれぞれかなり詳しい形

で、区民会議についての安全・安心部会のフォーラムのことについて情報を載せていただきました。各町会のところに案内を出しましたけれども、それに加えて、こういう形でそれぞれの区民の方々に対して情報提供をいたしてまいりました。

区民会議のニュースにつきましては、第1号、第2号、第3号、既に発行しております。第1号は、昨年10月に第1回、第2回の全体会議の報告と、それから、新しくなった委員の方々の名簿を紹介した。第2号では、ことしに入って3月に第3回の全体会議の内容と、それから、安全・安心部会のトピックスについて掲載して、発行いたしました。第3号は、7月に区民会議のフォーラムについて情報を載せております。これは次のページの後ろに浅黄色の区民会議フォーラム開催というのがつけてありますので、これをこのような形で発行いたしまして、各町会に回覧で回してあります。第4号につきましては、ことし10月に第5回区民会議全体会議の内容を載せる予定にしております。第5号につきましては、12月から1月について、第6回の全体会議の内容と、それから、先ほど若者部会のほうから説明がありました子育てフェスタでして、これは具体的にどういう形でやるかというのは、これから部会の中で検討していきますけれども、その内容について載せていこうというふうに考えております。以上、区民会議ニュースについてはこのような状況でこれから進めていく予定にしております。

それから、第2の区民会議フォーラムの開催については、既に先ほど言ったとおり、各地域情報紙に案内をいたしてしております。スケジュールとしては、9月7日に「大地震から助かる命を守る」ということで、先ほど村主部会長のほうからお話になったフォーラムを開催する予定にしております。第2回のフォーラムにつきましては、まだ日程は確定していませんけれども、一応子育てフェスタという形で、フォーラムとはちょっと違った形となりますが、若者部会が中心になって、内容はどういうふうな形で構成するかということを検討して実施を図っていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

今回の第1回フォーラムにつきましては、資料4-1のとおり、実施方法については、4-1に掲載しているような形で進行していきたいというふうに思っております。会場の集合が12時になります。委員の方々はそれまでに会場のほうへ集合していただきたいと思います。受付開始が30分前からいたします。開場が1時から、開催は1時半、このフォーラムの司会は高倉委員にお願いしております。委員長挨拶が5分程度、その後、区民会議の報告がございます。それぞれの部会長が説明する形になりますけれども、各部会の説明のときに、各部会の報告の前に、それぞれの委員の紹介をしようというふうになりましたので、部会長が壇上に上がったときに、該当する委員、例えば企画部会の方はまず部会長が壇上に上がったときに前へ出ていただいて、それで、整列していただいて、部会長からそれぞれ紹介を受けるという形をとりたい

と思いますので、それぞれの部会の中で各部会長が壇上に上がった段階で、担当する方々は前へ出てきていただけたらというふうにお願いします。短い時間の中でやりますので、なるべく速やかにやっていただければというふうに思います。時間は、企画部会は4分、安全・安心のまちづくり部会が8分、若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会は8分という形で進行していきたいと思っています。

その後、メインである安全に関してのご講演を、園田先生、目黒先生にお願いしてやる予定にしています。それぞれの講演時間は50分程度になります。それぞれの講演が終わった段階で10分程度の質疑応答の時間を設けていますので、いろいろ質問があると思いますので、委員の方々はもし質問があるということであれば、事前にどういう形のことを質問するかを考えておいていただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

その後、閉会として、締め挨拶を区長に5分程度のご挨拶をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。その後、解散して、展示ブースの片づけを行いますということになっております。

さらに、このフォーラムが終わった後、皆さん方で反省会をしたいというふうに考えております。既に事務局のほうから出席に関しての問い合わせが来ていると思いますので、なるべく多くの方が出席して、皆さん方と色々な形で意見できればなどというふうに思いますので、ひとつよろしくご協力のほどお願いしたいと思います。

それから、資料4-2でございますけれども、これはそれぞれの役割分担をした一覧でございます。まず、会場の設営については、全員分担して設営を行うということです。受付については、若者部会のほうで担当して、高橋さんと矢野さんをお願いする形にしております。会場案内は、山田委員、東川委員、菅野委員をお願いをしますので、よろしくお願い申し上げます。司会は、先ほど申し上げました安全・安心部会の高倉委員にお願いいたします。挨拶は、ここで委員長に挨拶をしていただくということです。区長の挨拶については、最後という、締めという形でご挨拶していただくということになりますので、ここに挨拶と頭に書いてありますけれども、一番最後の段階でご挨拶となりますので、よろしくお願い申し上げます。区民会議の報告として、企画部会長、安全・安心部会長、若者部会長をお願いいたしてあります。それぞれの人たちが説明するときにはパワーポイントを使うと思いますので、その係は事務局のほうにお願いしてやっていただく形になります。時間厳守という形で、タイムキーパーを置きます。それぞれの時間内に、超えるとブーツとブザーが鳴るような仕掛けになっていますので、時間内に説明が終わるように協力していただければと思いますけれども、担当として、山田委員、東川委員、菅野委員をお願いしてあります。それから、質疑応答等があるときに、質問する方にマイクを持っていく係として、これは先ほどのタイムキーパーと同じ山田委員と東川委員と菅野委員に願

いするという形になります。当日、防犯関係に関するブースを後ろに用意する形になっていますので、それにつきましては、対応として、田中委員と長谷川委員と吉田委員がこのブースの中でそれぞれの来た方々の質疑応答に対応していただくという形になりますので、よろしく願いいたします。演者の対応につきましては、村主部会長にお願いしますということでございます。記録につきましては、コンサルタント会社の方が、どういう形でしゃべったかの記録を全部とる形になっております。

資料4-3は、図で見てもらえばわかるとおり、こういう形で会場の配置をする予定にしておりますので、ご高覧していただければということです。

以上が企画部会からの報告になります。よろしく願いします。

菅原委員長 ありがとうございます。企画部会の報告と、あわせてフォーラムも全部一遍でやってくださいました。ここまでの間で何か質問がありましたらお願いいたします。

村主部会長、展示ブースを設置するのですよね。展示ブースは何を出されて、説明をどうされるのか、お願いします。

村主委員 具体的には、先ほどご紹介がありました3名の担当委員の方で詰めていただいておりますが、主な展示の内容は3つございまして、1つは、家具固定の金具とか、ポールとかを、実物を一通りサンプル的に買いそろえて、実物を展示すると。これは安全・安心部会の委員直轄でやります。もう1つは、今調整中ですが、講演いただく園田先生のゼミで、関連のある展示をしていただけるようであればお願いいたしますということで、今調整しております、まだそこは未確定でございます。もう1つ、このプロジェクトに、家具転倒防止—経験交流サイトというホームページを持っていらっしゃるNPOの方から、実物の展示について、物のご提供をいただけることになっておりまして、その人は、木造であれ、コンクリートの建物であれ、どうやったら家具を固定できるかと、ご本人はすごく研究をされている方なので、いろいろなところで講演をしたり、実演をしたりしている方から、協力したいというお申し出をいただいたので、その方がご提供いただくものを展示するコーナーも設けるとい、合計3つの要素で展示コーナーを構成するという、今、具体的に担当委員のほうでご検討いただいております。

菅原委員長 何か担当の人からありますか。皆さん、よろしいでしょうか。NPOの人は何を展示するのですか。写真、本物。

村主委員 写真と実物ですね。実物というのは、金具なり、マットの滑らないものとか、とめる金具だとか、事務局のほうに送ってきていただいたものがあるようです。

菅原委員長 ということだそうですので、私たちも見させていただいたら、勉強になるかなと思います。展示ブースは説明もつけるのですね。入って自由に見て、これは何かという、そういう説明をつけておいてくださらないと。誰か人がついてずっと説明し

ているのとは違いますでしょう。展示しておくわけでしょう。それは担当がいるから、工夫すると思いますが。

村主委員 実際、講演の前だったり、休憩時間だったり、終わってしばらくぐらいの限られた時間になりますので。

菅原委員長 休憩があるからね。

村主委員 担当委員3名と、私も時間がとればご説明に立ち会って、実物を参加された区民の方に実感を持って理解していただこうと思います。

菅原委員長 開会前と休憩10分、終わってからすぐ片づけるわけではないでしょうから。ということで、展示をしてくださるそうです。

ほかに何かご意見はありますか。アンケートとか、感想とかも準備は終わっているのですね。来た人に書いていただく、参加票とか、ご意見とか、そういうのも企画部会で準備するのですか。

金光委員 アンケートにつきましては、この間、企画部会で検討いたしまして、一部ちょっとつけ加える点があったので、それをつけ加えてくださいということで、事務局のほうに返還したのですけれども、ここはアンケートはついていなかったものですから、まだできていないのかなと思って、説明からはしよったのですけれども、どうなっているのですかね。

菅原委員長 どうでしょうか。たしか企画部会に出ていましたよね。

事務局 アンケートのほうは進めておりまして、今回つけていないのですけれども、言われたとおりに。

菅原委員長 それでは、当日はアンケートをつけますよね。本当はみんなの前にきちんと出していただかないと困るのですね。この次はそのようにしてください。お願いします。

ほかにどうでしょうか。

武濤委員 質問というか、確認だけなのですけれども、区民会議ニュースのほうでは、目黒先生が先で、園田先生という順番で書いてあって、実際は園田先生が先で、目黒先生が次でという形で、講演が2つあるのですね。それで、テーマがどちらも「備えて」というところなのですけれども、お話の内容のすみ分けというのでしょうか、その辺は、今ここで、このテーマとこのテーマみたいな感じがわかれば教えていただけますか。

村主委員 具体的な人選についてご提案した安全部会の立場からご説明いたします。

目黒先生は、建築の耐震工学の大家といいですか、専門の方でいらっしゃるって、まさに我々のテーマ、「大地震から助かる命を守る」というのにぴったりの研究なり、ご主張をされている、まさに専門のその分野の先生でいらっしゃるって、参加者に対しては、家具の固定——家具の固定だけではなくて、耐震性だとか、このテーマにふさ

わしい専門的な話をしていただけます。園田先生も建築の先生なのですが、ちょっとお立場が違って、プロフィールにも書いてありますように、地元川崎の大学で市の住宅政策審議会のお立場から、市の住宅政策としても、例えば高齢者を中心として、安心して住めるということについて研究をされたり、地元で実践されていると。強いて違いを言うと、目黒先生は安全、園田先生は安心を受け持つと。別にそう決めたわけではないのですけれども、そのように、ちょっとタッチが違くと。我々のテーマは、「大地震から助かる命を守る」という割と大きなテーマですが、その中でモデル事業は家具固定、転倒防止というふうに焦点を絞っていますので、目黒先生は、それがいかに大事かということをしかりと裏づけする話をいただけたと思いますが、そもそもはこのテーマは、もっと安全・安心という広いテーマですし、弱者に対する配慮とか、ふだんの心がけといった生活の視点も必要なもので、その部分を園田先生がうまくソフトに包んでいただけると。お2人の話がうまくマッチすると、トータルのテーマにふさわしいご講演をいただけるのではないかと考えております。

菅原委員長 フォーラムはこうやりますと今ご提案されて、皆さん特別なかったので、このとおりやりますけれども、このチラシは違いますよね。反対でしょう。目黒先生は後から講演していただいて。

事務局 これは事務局のほうでそういうふうな形にしたのですけれども、プログラムとは関係なく、先に目黒先生、園田先生と持ってきただけのことです。

菅原委員長 これはこの次からきっちりしてください。聞きに来る人は、もしかしたら、目黒先生のを聞きに来ようと思っているのかもしれないし、どちらかわからないのですね。来てみたら、園田先生のお話で、時間になったから、本当は目黒先生のを聞きたいけど、だめだわとか、後から来て、園田先生のを聞けるかなと思ったら、目黒先生がやって、園田先生は終わりましたよと言われてしまったたら、これはやっぱりチラシとしてはおかしいですよ。この次からはそういうことのないようにしていただきたいというふうに思いますので。

あともう1つは、何よりも大事なものは、ここは何人座れて、何人お呼びしていますか。

村主委員 会場の定員は150名、事前の申し込みは特に受け付けないことになっていますので。

菅原委員長 受け付けないからといって、把握していなければ困るでしょう。やってみたら、私たちばかりしかなくて、あと行政の人だけでやるのだったら、これはお2人の先生に申しわけないでしょう。それは頑張らなくちゃいけないのですよ。

村主委員 把握しているかと言えば、しておりません。

菅原委員長 でも、来てくれそうな人はいますか。お呼びかけしたら、かなり反応はいいですか。

村主委員 皆さん、各委員で声をかけていまして、非常に手応えがあって、会場が入り切らないのではないかとということを心配しております。

菅原委員長 それで安心しました。

高橋（慶）委員 それから、自主防災のほうからも、多分、本部長宛てだと思いますけれども、今回のフォーラムについて郵送でご案内が届いております。そこは大変に手応えがあるのではないかと、事務局のほうからだと思いますが。それともう1点、資料1-2は、当日も会場で配付するようになっております。追加募集の。

菅原委員長 フォーラムの日にそれを配っていただかないと困るわけですね。

村主委員 配付する予定にしております。先着順なので、それまでに殺到したときには、説明の仕方が違うかもしれませんが、配ることにしております。

菅原委員長 7日までにいっぱいになったらお配りしない。お配りしないのではなくて、これだけ集まりましたと、大いに宣伝したらいいじゃないですか。上に張りつけるなり、言葉で言うなりして、きょうお配りしたけれども、もういっぱいでございますので、きょうのは参考にしてくださいと言ってくだされば、そんなにたくさん応募してくださったらうれしいことですよ。ということで、満席になるそうですが、それも最後までお呼びかけしないとわかりませんのでね。いいですよと言ったから、来てくださるかということ、イコールでもないですよ。だから、みんなで、1人でも2人でもお呼びかけをして、チラシを配ってください。そして、少なくとも半分以上はいないと、せっかくお話しくださる先生に申しわけないですからね。ということでございます。

それでは、ここまでで企画部会長の報告が終わりました。特になければ、議事を終了したいと思います。

### 3 その他

菅原委員長 それでは、本日忙しい中、ご出席くださいました参与の皆さんから、区民会議への助言とか、本日の感想などをいただきたいと思います。次回は11月25日、午後3時から、区役所第1会議室、ここで全体会議が開かれますので、それは皆さん、最後のスケジュールのところを見ていただければわかるとおりです。

それでは、参与の方にお話をいただきたいと思います。いらした順から、月本参与から。

月本参与 皆さん、お疲れさまでした。先ほど雨笠参与もいらっしゃったのですが、多分急用で抜けられたところだったので、雨笠参与の次に来たのが私だったので、私からお話しさせていただきます。

きょう、充実したお話の中で、安全・安心のまちづくり部会のほうで、モデル事業を実際進められている中で、微調整を入れて、追加募集ということで、今度のフォー

ラムのお話も皆さんの中で非常に細かいところまで詰めていらっしやったなどということで、私も感激いたしました。ぜひフォーラムのほうも盛会になることをお祈りいたします。

若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会ということで、私もぎりぎりまだ若者と言える範疇なのかなというところでごさいます、ちょうど同じ世代の方々が子育てをしているという中で「安心・楽しい・助かる」という、3つのキーワードをもとに進められている中で、僕らも新しいことをやる時には、ペルソナ操作をやったりとか、あるいはヒアリングを進めていくというようなことで、本当に実現していく方向性が正しいかどうかというのを見きわめながら物事を進めていくということは、よくやってきているのですけれども、まさに今回、アンケート調査、しかも、2つの種類のアンケート調査の結果に基づきながら、委員の皆様方がそれぞれの団体とか施設に足を運ばれて、細かいところまでヒアリング調査をされているということで、きめの細かい取り組みだなどということで、私も本当に今回感心いたしましたので、これから実際具体的なモデル事業を進めていかれるに当たって、大きな参考になっていくのかなと思いますので、ぜひともこちらのほうもご期待申し上げます。本日も勉強になりました。ありがとうございました。

菅原委員長 ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。

その次に来られたのは山崎さんですね。山崎参与、お願いします。

山崎参与 闊達なご議論、ありがとうございます。また、座長の名司会も久しぶりに見させていただきまして、いろいろと勉強させていただいたところでございます。

きのう、たまたま報道番組を夜見ていたのですけれども、見られた方もいらっしやると思いますが、過疎に悩む村がどういうふうな形でその村のまちおこしをしようかということで、知恵を絞っておられまして、行き着いた先が、村でラジオ局をつくろうということで、そこで有意義な情報を流すことで、村民の皆様に関心を持っていただくということで、そんな番組をたまたま目にしたところでございます。これだけ有意義なご議論をされていらっしやる様子を区民の皆様に見ていただきたいなど。そのためにも、企画のほうからいろいろ工夫されているお話がありましたけれども、また今後とも期待しているところでございます。きょうはどうもありがとうございました。

菅原委員長 ありがとうございます。貴重なご意見、ありがとうございます。

それでは、勝又参与、お願いします。

勝又参与 もう終わりということなので、いつもは意見を出させていただいているのですけれども、今回は、後で中身をもう1度読ませていただいて、皆さんにまたお聞きしたいことがあれば、そのときにぜひよろしくお祈りいたします。

菅原委員長 ありがとうございます。

それでは、最後に木庭参与、お願いいたします。

木庭参与 今回、皆さんが細かいところまで突っ込んで議論されているんだというのが、資料を拝見してわかりましたので、またじっくりと精査させていただきまして、今後の皆様の支援をしていきたいと思っておりますので、今後とも勉強させていただきますよう、よろしくお願いいたします。菅原委員長 ありがとうございます。参与の皆さんには、いろいろ応援をいただけるというふうに思っておりますので、これからも区民会議にどうぞよろしくお願いいたします。

これで第5回の区民会議を終了させていただきたいと思っておりますが、それでは、最後になりましたが、区長からご挨拶をいただくことになっておりました。

区長 委員の皆様、大変熱心な議論、ありがとうございます。安全・安心部会、モデル事業の実施ということで、調整ということでご苦労されているわけでございますけれども、なかなか10件まとまるのが難しかったということで、条件を緩和するというところで、9月7日までに集まればいいのですけれども、集まらない場合も、先ほど高橋庸之委員からございましたように、多分、この講演を聞けば、うちうちもやってくれというような話になると思えますし、そうなりますと、10件やったモデルの報告をすると、次年度からこれは随分普及するのかなと、そのためにも重要なフォーラムだというふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

それから、若者部会のほうでございます。子育ての関係では、待機児童ということで宿題をいただいておりますけれども、今年度中、来年の4月をめどに、麻生区内で今4園計画がございまして、250名ほど定数がふえるのですね。ことしの4月の待機児童数が43名でしたかね、数は足りるのですけれども、保育園ができる場所というのは、例えば未就学児、就学前のお子さんが多い地域、それから、20代～40代の子育て世代の多い地域と、そうでない地域がございますので、そういうところに適材適所になればいいのですけれども、先ほどお話の中で、待機児童ゼロにして横浜方式を目指すのではなくて、それも重要ですが、きめの細かい麻生区のさまざまな事業と結びつけた総合的な子育て支援ということのご議論もいただいておりますので、きょう、こども支援課のスタッフも来ておりますけれども、大分頑張っている内容もございまして、大学連携ですとか、この分野は私ども、財政状況が厳しいと言われるかもしれませんが、子育て支援の予算というのは年々ふやしておりますので、ぜひそういうところも区民の皆さんにしっかりお伝えしてまいりたいと思っております。

それから、芸術・文化の部会、本当に多岐の団体のヒアリング、そして、団体だけではなくて、行政ですとか、関連団体も含めて、総合的なヒアリングをしていただいて、つまり、いろいろな方向で意見がまとまっているというふうに思っております。先ほどまとめのところをちょっと見させていただきまして、そうすると、行政が予算がないから市民館の改築は難しいですとか、文化担当官、難しいとか、これを見ます

と、皆さんが方向が出ているのに、どうも行政が弱気なのではないかというおしかりを受けているようでございますので、第4期の実行計画という、3年ごとの計画を今まとめていまして、来年からの3年間の計画をまとめているのですけれども、麻生区は引き続き芸術・文化のまちづくりを中心に据えてやっていきますので、こうした皆さんのご要望にも応えられるような施策も展開していければというふうに思っておりますので、引き続き皆さんのご意見、ご指導をよろしくお願ひしたいと思ひます。きょうはありがとうございました。

#### 4 閉 会

菅原委員長 ありがとうございます。それでは、これで第5回区民会議の全体会を終了いたします。長時間ご審議いただきまして、ありがとうございました。

午後4時42分閉会